# HD-RQSSU2/R5シリーズ マニュアル

# はじめにお読みください

このたびは、本製品をご利用いただき、誠にありがとうございます。本製品を正しく使用するために、はじめにこのマニュアルをお読みください。お読みになった後は、大切に保管してください。

## ステップ1 箱に入っているものを確認する

万が一、不足しているものがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。なお、製品形状はイラストと異なる場合があります。

- □ ハードディスク（本製品）....1台
- □ USBケーブル......................1本
- □ 電源ケーブル.................1本
- □ 3ピン-2ピン変換コネクタ...1個

※3P-2P変換コネクタを使ってACコンセントに接続する場合は、感電防止のため、アース線は必ず接地してください。アース線は電源コードをつなぐ前に接続し、電源コードを抜いてから外してください。順序を守らないと感電の原因となります。アース線がコンセントや他の電極に接触しないようにしてください。

- □ eSATAブラケット.........1個
- □ eSATAケーブル...............1本

※eSATA接続では、RAIDを設定することができません。RAIDを設定したい方は、USBケーブルで接続してください。

※お使いのパソコンにeSATAコネクタがない場合、eSATAブラケットでパソコン内部のシリアルATAコネクタをeSATAコネクタへ変換してお使いください。

- □ ラック取付金具(A)...............左右各1個
- □ ラック取付金具(B)ロング用....左右各1個
- □ ラック取付金具(C)ショート用..左右各1個
- □ ユーティリティCD.........................1枚
- □ 安全にお使いいただくために必ずお守りください.........................1枚
- ☑ はじめにお読みください（本紙）...........1枚
- □ ちょうネジ..........4個
- □ M4ネジ............4個
- □ ワッシャ............4個
- □ M5ネジ...........10個
- □ ケージナット..... 10個
- □ 前面カバー開閉用鍵.............. 2個
- □ 保証書............. 1枚

※保証書は本製品の修理をご依頼いただく場合に必要となりますので、大切に保管してください。保証書にはシリアルNo.が記載されています。

※追加情報が別紙で添付されている場合は、必ず参照してください。

## ステップ2 本製品の設置

### ご注意ください

取り付ける前に、以下の点にご注意ください。

- ・ラックの説明書をよく読み、転倒しないよう十分気をつけてください。
- ・ラックや本製品の上には物を載せないでください。
- ・本製品は精密な機器です。落としたり衝撃を与えないよう慎重に作業を行なってください。
- ・本製品は約10kgの重量があります。落としてけがすることがないよう慎重に作業を行なってください。
- ・金属部分で手をけがしないよう慎重に作業を行なってください。
- ・「安全にお使いいただくために必ずお守りください」の指示に必ずしたがってください。
- ・本製品の動作時に周辺の動作環境が、温度5～35℃、湿度20～80%を保てる場所に設置してください。
- ・本製品前面および背面は通風孔になっています。障害物などでふさがないようご注意ください。

**❶** 取り付けるラックの奥行きに合わせて、左右のラック取付金具(A)(B)、または(A)(C)を下図のようにワッシャをはさみ、ちょうネジまたはM4ネジで固定します。

※余ったちょうネジまたはM4ネジは予備として大切に保管ください。

※ラックの奥行きが570mmを超えるときは(B)ロング用、570mm以下のときは(C)ショート用をラック取付金具(A)に取り付けてお使いください。

**❷** 付属のケージナットをラックの取り付け穴（左右、前後）に取り付けます。

※取り付け位置は、左右それぞれ、**前面3箇所、背面2箇所**です(手順3、4の図参照)。

※ケージナットはラック内側からツメをひっかけて、もう一方のツメをドライバー等でひっかけます。

※ラックに取り付けたケージナットの左右の高さが同じになるように取り付けてください。

※前面の穴の間隔は15.875mmと28.575(15.875+12.7)mmです。取り付けられるラックの穴をお使いください。ラックの穴の間隔には15.875mmと12.7mmの二種類あります。

**❸** 手順1で組み合わせたラック取付金具(左用、右用各1個)を、付属のM5ネジでラックに固定します。

※写真のように、下側のくぼみと一番上にある穴の2箇所をM5ネジでラックに固定します。真ん中の穴は本製品を固定するときに使用します。

※対応のラックはEIA規格に準拠の19型ラックです。本製品は2U分のスペースを使用します。

※ネジの固定には、プラスドライバーが必要です。

**❹** ラックに本製品を差し込み、付属のM5ネジで固定します。

以上で設置は完了です。

右上へつづく

## TeraStation PROに接続してお使いになる方へ

本製品はTeraStation PRO(以降、本紙ではTeraStationと表記します)に接続して使用することができます。RAIDモードを変更せず(出荷時：RAID5)で本製品をTeraStationに接続してお使いになる場合、ステップ3～5は必要ありません。TeraStationをシャットダウンしてから本製品の電源ケーブルを接続し、TeraStationのUSBコネクタに本製品を接続してそのままお使いください。TeraStationの設置手順、USBコネクタの位置、TeraStationに接続したハードディスクのフォーマット手順は、TeraStationのマニュアルをご参照ください。RAIDモードを変更する場合は、そのままステップ3にお進みください。

※接続後、TeraStationの設定画面から本製品をフォーマットすることをおすすめします。出荷時設定(FAT32)では、本製品は読取専用またはバックアップ機能専用となります。

〈TeraStation TS-RHTGL/R5シリーズに取り付ける場合の例〉

## ステップ3 パソコンに接続してユーティリティをインストールする

本製品にWindowsをインストールして起動ドライブとして使用する場合は、画面で見るマニュアル「HD-RQSSU2/R5シリーズ ユーザーズマニュアル」を参照してセットアップしてください（起動ドライブとしての使用は、Windows搭載パソコンでeSATA接続時のみ対応です。Macintoshでは起動ドライブとして使用することはできません）。以下の手順は、増設用ハードディスクとして使用するときの手順です。

### Windows

セットアッププログラム「DriveNavigator」に従って作業を行います。

**❶** eSATAコネクタがないパソコンにeSATAケーブルで接続したいときは、付属のeSATAブラケットで次のようにパソコン内部のシリアルATAコネクタをeSATAコネクタへ変換してお使いください。

※本製品をUSB接続する場合や、パソコンのeSATAコネクタに接続する場合、弊社製eSATAインターフェースに接続する場合は、以下の作業は必要ありません。

※eSATAケーブルで接続した場合、本製品を複数領域に分割していても、１つの領域しか認識できません。

**メモ　eSATAブラケットの取り付け方法**

**注意**
- ●作業を始める前に、パソコンと周辺機器の電源スイッチをすべてOFFにし、コンセントから電源を抜いてください。
- ●パソコンの電源スイッチをOFFにした直後は、パソコン内部の部品に触らないでください。特にCPUやVGAチップは高温になっており、やけどをするおそれがあります。電源スイッチをOFFにして30分以上経ってから作業することをおすすめします。
- ●本製品に触る前にドアノブやアルミサッシなどの身近な金属に触れ、身体の静電気を除去してください。
- ●手順は、パソコンによって異なります、パソコン本体と周辺機器のマニュアルも必ず参照してください。

1. パソコン→周辺機器の順に電源スイッチをOFFにし、電源ケーブルをコンセントから抜きます。
2. パソコン本体からケーブル類とカバーを取り外します。
   パソコン本体のマニュアルを参照してください。
3. 空いているPCIバススロットカバーを取り外します。
   PCIバススロットの位置は、パソコン本体のマニュアルで確認してください。
   取り外したネジは、eSATAブラケットを固定するときに使用します。紛失しないように注意してください。
4. PCIバススロットカバーを取り外した場所にeSATAブラケットを差し込みます。
5. 手順3で取り外したネジでeSATAブラケットを固定します。
6. eSATAブラケットのシリアルATAコネクタを、パソコン内部のシリアルATAコネクタに接続します。
   パソコン本体のマニュアルを参照してください。
7. パソコン本体にケーブル類とカバーを取り付けます。
   パソコン本体のマニュアルを参照してください。
8. 電源ケーブルをコンセントに差し込みます。

（図：カバー／ネジ／eSATAブラケット／ネジ／eSATAコネクタ　パソコン内部のシリアルATAコネクタに接続します。）

以上でeSATAブラケットの取り付けは完了です。

**❷** パソコンに接続している周辺機器(本製品を除く)の電源スイッチをすべてONにします。その後、パソコンの電源スイッチをONにします。

**❸** 起動中のアプリケーションを全て終了します。

**❹** 付属のユーティリティCDをパソコンにセットします。

DriveNavigator（❺の画面）が起動します。DriveNavigatorが起動しない場合は、ユーティリティCD内の「DriveNavi.exe」をダブルクリックしてください。

**メモ**
- ●Windows Vistaをお使いの場合、自動再生の画面が表示されたら、[DriveNavi.exeの実行]をクリックしてください。また、「プログラムを続行するにはあなたの許可が必要です」と表示されたら、[続行]をクリックしてください。
- ●パソコンにCD-ROMドライブがない場合は、弊社ホームページ（buffalo.jp）からセットアップ用ユーティリティをダウンロードできます。

**❺**

[かんたんスタート]をクリックします。

**❻** 以降は画面の指示にしたがって本製品を取り付け、セットアップを行ってください。

※セットアップ中、RAIDモードの変更を選択した場合、RAID管理ユーティリティが起動します。RAID変更手順は、うら面「RAIDを構築する」をご参照ください。

※Windows Vista/XP/2000をお使いの場合、セットアップ中に表示される画面の指示にしたがってNTFS形式にフォーマットすることをおすすめします。

**メモ**
「次の新しいドライバを検索しています （以下略）」 というメッセージが表示されたときは、 ［キャンセル］ をクリックして作業を続行してください。再起動後に、自動的にドライバがインストールされます。

以上で接続とユーティリティのインストールは完了です。

### Mac OS

以下の手順でパソコンに接続し、RAID設定ユーティリティをインストールします。

**❶** 周辺機器（本製品を除く）→パソコンの順に電源スイッチをONにします。

**❷** 本製品をパソコンに接続します。

※eSATAケーブルで接続することはできません。

**重要**
本製品を接続すると「セットしたディスクにMac OS Xで読み込めないボリュームが含まれています」という内容の警告メッセージ（日本語と英語、または日本語のみ）が表示されることがあります。日本語のメッセージでは［続ける］、英語のメッセージでは［OK］をクリックしてください。

[続ける]または[OK]をクリックします。

※画面は、お使いのパソコンによって異なることがあります。

**❸** ユーティリティCDの[Mac]フォルダにある（RaidSetting）をデスクトップにコピーします。

**メモ**
ディスクトップにコピーした（RaidSetting）は、RAID設定ユーティリティの起動ファイルです。このファイルをダブルクリックすることで、RAID設定の画面を表示できます（ステップ3を参照）。

以上で接続とユーティリティのインストールは完了です。

電源ケーブルは、背面のケーブル抜け防止バンドで固定することができます。

※電源ケーブルを取り外すときは、ケーブル抜け防止バンドのつまみを下方に引っ張りながらバンドをはずしてください。

●RAIDの設定をする場合（USB接続のみ）

P3 ステップ4 RAIDを構築する(USB接続のみ) へ進む

●出荷時設定のままお使いになる場合

P3 ステップ5 正しく動作しているか確認する へ進む



次ページへつづく

# ステップ4 RAIDを構築する（USB接続のみ）

**重 要**

- RAIDを構築する時は、本製品一台のみを接続し、他のUSB機器は全て取り外しください。
- RAIDを構築すると、本製品に保存されていたデータが全て消去されます。RAIDの構築を行う前にバックアップを作成してください。

**1** RAID管理ユーティリティを起動します。

Windowsの場合は、タスクバーにあるアイコンを右クリックし、[ユーティリティを開く]を選択します。

Macintoshをお使いの場合は、デスクトップにコピーした「RaidSetting」をダブルクリックします。

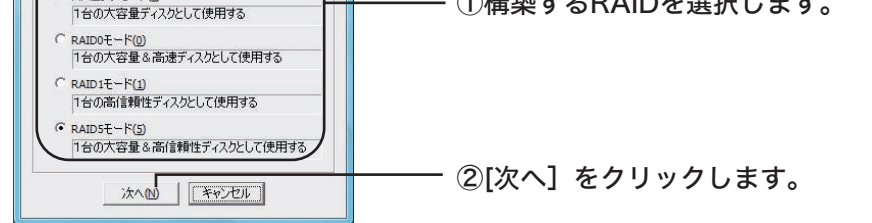
**2**

[設定]ー[ディスク構成の変更]を選択します。

**メ モ**
パスワードを設定している場合は、パスワードの入力画面が表示されます。パスワードを入力し、次の手順へ進んでください。

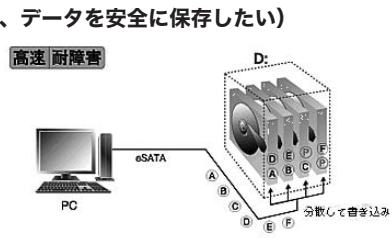
**3**

①構築するRAIDを選択します。

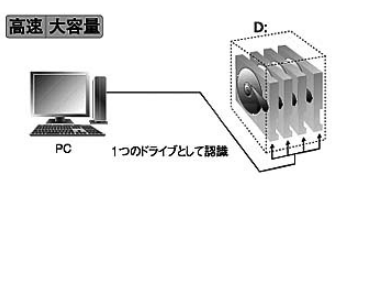
②[次へ] をクリックします。

各RAIDモードの特徴は次のとおりです。

**■RAID5モード（出荷時設定/高速アクセスでき、データを安全に保存したい）**

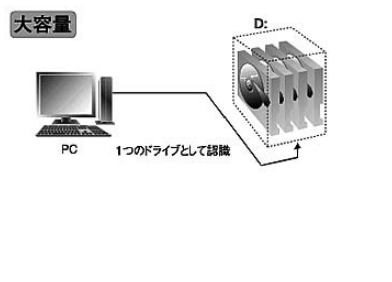
データからパリティ（誤り訂正符号）を生成し、データとともに複数のハードディスクに分散して記録します。どれか1つハードディスクが破損しても、ハードディスク交換により、周りのデータとのパリティ比較からデータ復旧が可能です。OS上からは、3台分のハードディスクの容量しか認識されません。ハードディスクへのアクセス速度は、1台だけ使っている場合よりも高速です。

使用できる容量は、ハードディスク3個分です。合計容量が1TB(250GB×4台)の製品では、750GB(250GB×3台)の1領域として認識されます。

**■RAID0モード（高速な大容量ハードディスクとして使用する）**

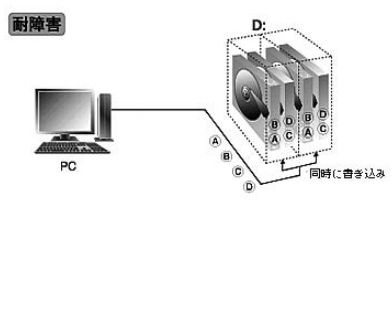
4台のハードディスクを1台の大容量ハードディスクとして使う方法です。データを分散して4台のハードディスクに同時記録するため、アクセス速度が向上します。OSからは4台のハードディスクの容量を足した1台の大容量ハードディスクとして認識されます。RAID0モードでは、データを保護するしくみがありません。そのため、ハードディスクが1台でも故障したら、すべてのデータが読み出せなくなります。

使用できる容量は、ハードディスク4個分です。合計容量が1TB(250GB×4台)の製品では、1TB(250GB×4台)の1領域として認識されます。

**■スパニングモード（大容量ハードディスクとして使用する）**

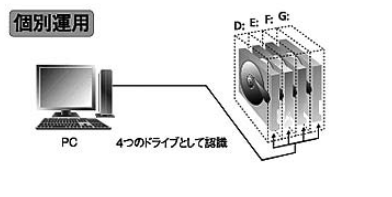
4台のハードディスクを1台の大容量ハードディスクとして使う方法です。OSからは4台のハードディスクの容量を足した1台の大容量ハードディスクとして認識されます。データを分散せずに保存するため、アクセス速度は通常と変わりません。スパニングモードでは、データを保護するしくみがありません。そのため、ハードディスクが1台でも故障したら、すべてのデータが読み出せなくなります。

使用できる容量は、ハードディスク4個分です。合計容量が1TB(250GB×4台)の製品では、1TB(250GB×4台)の1領域として認識されます。

**■RAID1モード（自動的にバックアップを作成し、データを安全に保存したい）**

バックアップ用のハードディスクに保存するデータのバックアップを作成することにより、データを保護します。1台のハードディスクが故障しても、バックアップ用のハードディスクにあるデータを読み出すことができるため、そのまま使い続けることができます。また、故障したハードディスクを新しいハードディスクに交換すれば、データを復旧できます。OS上からは、2台分のハードディスクの容量しか認識されません。ハードディスクへのアクセス速度は、1台だけ使っている場合とほぼ同じです。

使用できる容量は、ハードディスク2個分です。合計容量が1TB(250GB×4台)の製品では、500GB(250GB×2台)の1領域として認識されます。

**■通常モード（4台のハードディスクとして使用する）**

RAIDを構築しないで使用します。本製品は4台のハードディスクとして認識され、それぞれに違うデータを保存できます。

使用できる容量は、ハードディスク4個分です。合計容量が1TB(250GB×4台)の製品では、250GBのハードディスク4台として認識します(eSATAケーブルで本製品を接続した場合、およびTeraStationに接続した場合、認識できるハードディスクは1台です)。

**4** フォーマットする形式を選択します(Windows Vista/XP/2000のみ)。

①本製品をフォーマットする形式を選択します。

②[次へ] をクリックします。

**注 意**

- Windows Server 2003やMac OSをお使いの場合、上の画面は表示されません。次の手順へ進んでください。
- NTFSフォーマット（推奨）を選択することをお勧めします。FAT32フォーマットを選択した場合、4GB以上のファイルを保存できません。

**5** 「ディスク構成を変更すると、ディスク内のデータは消去されます。よろしいですか？」と表示されたら、[はい]をクリックします。

**6** 「変更先ドライブの中のデータを再度確認してください。変更してよろしいですか？」と表されたら、[はい]をクリックします。

RAIDの構築が始まります。

**7** 「設定の変更が正常に終了しました。」または、「動作モードを変更しました。」と表示されたら、［OK］をクリックします。

以上でRAIDの構築は完了です。

**注 意**

- RAID5モードやRAID1モードでRAIDを構築された場合、上の手順が完了するとRAIDの構築が始まりアクセスランプが赤色点滅します。アクセスランプが消灯するまで、本製品の電源をOFFにしないでください。RAIDの構築には、RAID５モードの場合で100GBあたり約12分（1TBのモデルの場合、約2時間）、RAID1モードの場合で100GBあたり25分（1TBのモデルの場合、約4時間）かかります。アクセスランプが消灯したら、RAIDの構築は完了です。

# ステップ5 正しく動作しているか確認する

以下の手順で、本製品が正常に動作しているか確認してください。

## ■Windows

Windows Vista/XP/Server 2003：

[スタート]ー[コンピュータ(マイコンピュータ)]の順にクリックします。「ハードディスクドライブ」にアイコン HD-RQSSU2または HD-RQSSU2)が追加されていることを確認してください。

Windows 2000：

デスクトップの[マイ コンピュータ]をダブルクリックします。マイ コンピュータにアイコン（ HD-RQSSU2）が追加されていることを確認してください。

**重 要**

**Windowsをお使いの方へ**

**本製品をNTFS形式でフォーマットすることをお勧めします（Windows Server 2003の場合は、必ずフォーマットしてください）。**

出荷時状態は、FAT32形式でフォーマットされていますのでそのままお使いになれますが、4GB以上のファイルを保存することができません。DVD作成やキャプチャなど大容量のファイルが生成される作業が正常に行えない恐れがあります。

下記の手順で、本製品をNTFS形式でフォーマットすれば、4GB以上のファイルも保存できるようになります（Windows Vista/XP/2000では、RAID構築時にNTFS形式でフォーマットした場合は、すでにNTFS形式でフォーマットされていますので下記の手順は不要です）。

※本製品にデータが保存されている場合は、以下の手順でフォーマットできません。画面で見るマニュアル「HD-RQSSU2/R5シリーズ ユーザーズマニュアル」に記載の手順でフォーマットしてください。

1.パソコンにユーティリティCDをセットします。

DriveNavigatorが起動します。

※起動しない場合は、ユーティリティCDの「DriveNavi.exe」をダブルクリックしてください。

※Windows Vistaの場合、「プログラムを続行するにはあなたの許可が必要です」と表示されることがあります。その場合は、[続行]をクリックしてください。

2. ［オプション]-[NTFSでフォーマットする］を選択し、［開始］をクリックします。

以降は、画面に従ってフォーマットしてください。

右上へつづく

**バックアップをお勧めします**

万が一、本製品が故障したときに備え、バックアップを作成することをお勧めします。バックアップとは、他のハードディスクなどに本製品のデータをコピーしておくことです。詳しくは、画面で見るマニュアル「HD-RQSSU2/R5シリーズ ユーザーズマニュアル」を参照してください。なお、本製品をRAID5モードやRAID1モードでお使いの場合は、本製品内蔵のハードディスクが1台故障してもデータを復旧できますが、2台以上同時に故障した場合はデータを復旧できません。そのため、大切なデータは、RAID5モードやRAID１モードでお使いの場合であっても他のハードディスクなどにバックアップを作成することをお勧めします。

**ハードディスクの破棄・譲渡・交換・修理時の注意**

「削除」や「フォーマット」したハードディスク上のデータは、完全には消去されていません。お客様が、廃棄・譲渡・交換・修理等を行う際に、ハードディスク上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクに記録された全データを、お客様の責任において消去することが非常に重要となります。

万一、　お客様の個人データが漏洩しトラブルが発生したとしましても、弊社はその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

※ソフトウェアを削除することなくハードディスクやパソコンを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約違反になることがありますので、ご注意ください。



## ■Mac OS

デスクトップに本製品のアイコン（ ）が追加されていることを確認してください。追加されていない場合は、本製品の電源をOFFにした後、再度ONにしてください。確認後、本製品をMac OS拡張形式で初期化してください。

**重 要**

**Mac OSをお使いの方へ**

**下記の手順で必ず本製品をMac OS拡張形式で初期化してください。**

Mac OSをお使いの場合、Mac OS拡張形式にフォーマット(初期化)しないと、本製品を正常に認識できません。

1.デスクトップにある起動ボリュームのアイコン ([Macintosh HD]など）をダブルクリックします。

2.[アプリケーション]フォルダの[ユーティリティ]フォルダを開きます。

3.[ディスクユーティリティ]をダブルクリックします。

4.

①本製品をクリックします。

②[パーティション]をクリックします。

③フォーマットに[Mac OS拡張]を選択します。

④[パーティション]をクリックします。

※画面は、お使いのパソコンによって異なることがあります。

5.[パーティション]をクリックします。

6.初期化が始まります。初期化が完了するまでお待ちください。

7.デスクトップに本製品のアイコン（ ）が追加されていることを確認してください。

以上でフォーマットは完了です。

**※Mac OS X 10.4以降をお使いの方へ**

RAIDモードを変更しなかった場合、本製品はFAT32形式でフォーマットされています。そのため、上記の手順で初期化しなくても使用することもできますが、以下の制限事項があります。

・4GB以上のファイルを保存できません。
・パソコンに接続してからマウントされるまでに数十秒かかることがあります。
・Mac OS X 10.3以前では使用できません。

Macintoshのみで使用する場合は、上記の手順でMac OS拡張形式で初期化することをお勧めします。

**注 意**

- RAIDの設定により、認識する容量は異なります（出荷時状態は、RAID５モードに設定されています）。
- USB接続で通常モードに設定した場合、本製品のアイコンが4つ追加されます。
- 出荷時設定では、RAID5モードとなっています。

# リビルド方法（RAID5/RAID1モードのみ）

RAID5モードやRAID1モードでお使いの場合、本製品に内蔵されたハードディスクが1台故障しても元の状態に復旧（リビルド）することができます。
元の状態に復旧するときは、以下の手順を行ってください。

**注 意**

- ハードディスクの交換は、画面で見るマニュアル「HD-RQSSU2/R5シリーズ ユーザーズマニュアル」の「メンテナンス」に記載の「ハードディスクの交換」の手順で行ってください。また、画面で見るマニュアルに記載されている注意を必ずお守りください。
- 交換するハードディスクは、弊社製TS-OPHD-HTGLシリーズをお使いください。また、故障したハードディスクと同じまたはそれ以上の容量のものを使用してください。
- データの復旧には、RAID5モードでは100GBあたり約12分（1TBのモデルの場合、約2時間）、RAID1モードでは100GBあたり約25分（1TBのモデルの場合、約4時間）かかります。
- RAID0モード、スパニングモード、通常モードでお使いの場合はデータを復旧できません。
  RAID0モードやスパニングモードの場合、1台でもハードディスクが故障すると本製品に保存した全てのデータが読み出せなくなります。通常モードの場合は、故障したハードディスクのデータが読み出せなくなります。

**1** ハードディスクを交換します。

画面で見るマニュアル「HD-RQSSU2/R5シリーズ　ユーザーズマニュアル」の「メンテナンス」に記載の「ハードディスクの交換」を参照して交換してください。

**2** パソコンまたはTeraStationに接続していないことを確認し、本製品の電源をONにします。

アクセスランプが赤色に点滅し、リビルドが始まります。アクセスランプが消灯するまでお待ちください。なお、AUTO電源切替スイッチを「AUTO」にしている場合は、リビルドが完了すると自動的に本製品の電源がOFFになります。

**3** アクセスランプが消灯したら、本製品をパソコンまたはTeraStationに接続します。

本製品が認識され、元と同じ状態で使用できます。

以上で完了です。

- 本製品が正常に認識されない場合は、以下のことを確認してください。
  ・本製品の電源はONになっているか。
  ・USBケーブルやeSATAケーブル、電源ケーブルは正しく接続されているか。
- 本製品をパソコンまたはTeraStationから取り外すときは、画面で見るマニュアル「HD-RQSSU2/R5シリーズ ユーザーズマニュアル」の「本製品の取り外しかた」に記載の手順で行ってください。



# 画面で見るマニュアルについて

画面で見るマニュアルには、本製品の取り外しかたやQ&A、付属ソフトの概要など本紙に記載されていないことが記載されています。本紙とあわせて必ずお読みください。画面で見るマニュアルは、以下の手順で表示できます。

## ■Windows

**1** ユーティリティCDをパソコンにセットします。

※DriveNavigatorが起動します。起動しないときは、ユーティリティCD内の「DriveNavi.exe」をダブルクリックしてください。
※Windows Vistaの場合、「プログラムを続行するにはあなたの許可が必要です」と表示されることがあります。その場合は、[続行]をクリックしてください。

**2** ［マニュアルを読む］をクリックします。

**3** 表示したいマニュアルを選択し、[開始]をクリックします。

※画面で見るマニュアル（PDFファイル）を読むには、Adobe Readerがインストールされている必要があります。Adobe Readerは、DriveNavigatorの[マニュアルを読む]からインストールできます。
※Windows 2000をお使いの場合、Internet Explorer 6.0以上がインストールされている必要があります。
※Adobe Readerの使いかたは、ヘルプを参照してください。
※画面上で見づらいときは、紙に印刷してお読みください。

## ■Mac OS

ユーティリティCD内、[Mac]フォルダに収録されています。

# 故障かなと思ったら（ランプ・ブザーの確認）

本製品には、異常が発生した場合にブザーやアクセスランプで状態を表示する機能があります。故障かなと思ったときは、ブザーやアクセスランプの確認をしてください。

| アクセスランプの状態 | ブザー音 | 本製品の状態 |
|---|---|---|
| ー | ピー・ピー・ピー（繰り返し鳴る） | 内部ファンが停止しています。本製品の電源をOFFにして、通風孔にほこりがたまっていないか確認してください。ほこりを取り除いても解決しない場合は、ファンが故障している可能性があります。弊社サポートセンターへご連絡ください。 |
| ー | ピーーー（連続して鳴り続ける） | ハードディスクが非常に高温となっています。背面から風が出ているかを確認してください。<br>風が出ていない場合は、本製品の電源をOFFにして、通風孔にほこりがたまっていないか確認してください。ほこりを取り除いても解決しない場合は、ファンが故障している可能性があります。弊社サポートセンターへご連絡ください。<br>ファンが回転している場合は、ハードディスクが故障している可能性があります。アクセスランプを確認し、ハードディスクの状態を確認してください。なお、どのアクセスランプも赤色点灯していない場合でも、ハードディスクが高温となっています。本製品の電源をOFFにして、1時間以上待ってからお使いください。 |
| アクセスランプのいずれかが赤色点灯 | ピー（約3秒鳴って停止） | 点灯したランプのハードディスクに異常があります。ハードディスクを交換してください。交換しても解決しない場合は、ハードディスクが正しく接続されているか確認してください。 |
| アクセスランプのいずれか（複数の場合もあります）が赤色点滅 | ー（ピッピッピッ） | リビルド（データ修復）中です。RAID5モードやRAID1モードでハードディスクを交換した場合にこの状態となります。アクセスランプが消灯するまで（リビルドが完了するまで）電源をOFFにしないでください（リビルド完了時に、「ピッピッピッ」とブザーが鳴ります）。本製品内部でデータの移動を行っています。電源をOFFにすると、本製品が故障したり、データが破損・消失する恐れがあります。<br>リビルド中でもパソコンに接続して使用できますが、データ転送速度が遅くなります。リビルド時間は、RAID5モードの場合で100GBあたり約12分（1TBのモデルの場合、約2時間）、RAID1モードの場合で100GBあたり約25分（1TBのモデルの場合、約4時間）かかります（パソコンに接続していない状態での目安です）。 |
| 全てのアクセスランプが赤色点灯 | ピー（約3秒鳴って停止） | 本製品を認識できません。本製品をUSBで接続してRAIDを構築してください。 |

※アクセスランプは、ディスクアクセスに対応して緑色点灯します。RAIDメンテナンス機能実行中は、アクセスランプがDisk1→Disk2→Disk3→Disk4→Disk3→Disk2→Disk1→Disk2・・・の順に橙色点灯します。RAIDメンテナンス機能については、画面で見るマニュアル「HD-QSSU2/R5シリーズユーザーズマニュアル」をご参照ください。

**注 意**

**ハードディスクを交換される方へ**

- ハードディスクの交換は、画面で見るマニュアル「HD-RQSSU2/R5シリーズ ユーザーズマニュアル」の「メンテナンス」に記載の「ハードディスクの交換」の手順で行ってください。また、画面で見るマニュアルに記載されている注意を必ずお守りください。
- 交換するハードディスクには、TS-OPHD-HTGLをお使いください。また、故障したハードディスクと同じまたはそれ以上の容量のものを使用してください。

  例：1TBのモデルの場合、TS-OPHD-H1.0TGL（250GB）をお使いください。

注意

**本製品の紛失・盗難等には十分ご注意ください**

本製品の紛失・盗難・横領・詐取等により、第三者に個人情報が漏えいする恐れがあります。個人情報が第三者に漏えいしたために損害が生じた場合、弊社はその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

HD-RQSSU2/R5シリーズ　はじめにお読みください
2008年8月5日 第2版発行　発行 株式会社バッファロー